

# Prednisolone 負荷による CPK, LDH, ミトコンドリア GOT の変動について

国立療養所宇多野病院

野 口 貞 子      北 野 沿 男  
小 西 哲 郎      池 上 佳 典  
太 田 光 熙      遠 藤 二 郎

## 〔目 的〕

DMP 患者の血清中には、発病初期より筋肉由来の種々の血清酵素値が上昇し、これらが本症診断の有力な手がかりの一つとされてきた。しかしこの酵素異常に対する機序については、未だ明確な evidence は少なく本症の成因とともに未解決のままである。そこで我々は Prednisolone 負荷によるミトコンドリアに局在するミトコンドリア GOT (m-GOT) と CPK、LDH などの酵素の動態を、高橋らの方法に従って DMP およびその他の神経筋疾患で測定し若干の検討を加えたので報告する。

## 〔方 法〕

対象は DMP では、Duchenne 型 33 例、先天型 10 例、肢帯型 5 例の計 48 例、慢性期多発性筋炎 3 例、神経原性筋萎縮症 (benign Werdnig Hoffman, Charcot Marie Tooth 病, Kugelberg Welander 病, 脊髄性進行性筋萎縮症を含む) 9 例、筋萎縮性側索硬化症 5 例の総計 65 例である。方法は、前日の午後 10 時より絶食とし、検査当日午前 6 時に体重 1 kg あたり 1 mg のプレドニゾンを経口投与し、前、2 時間、4 時間、6 時間目に各 3 ml 採血し、血清 CPK、GOT、m-GOT、LDH を測定した。なお、GPT も測定し、異常高値症例は除いた。

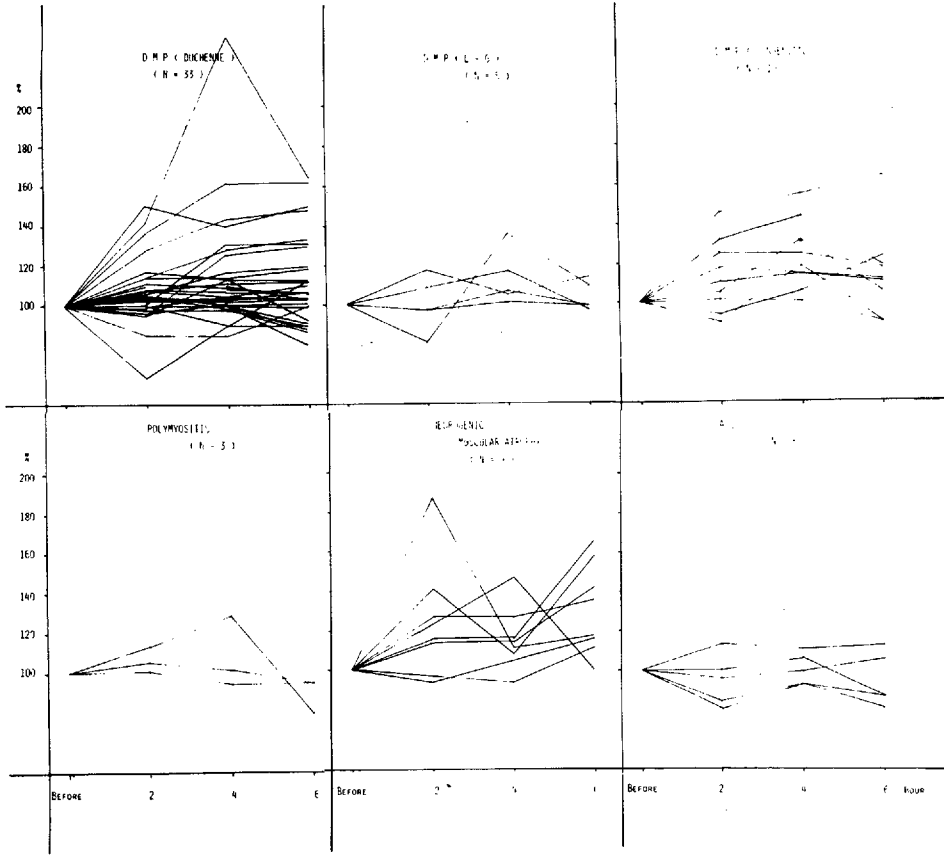
## 〔結 果〕

Table 1 に各疾患群別の血清酵素値の平均値と範囲をまとめた。DMP (48 例) については、CPK、LDH は Prednisolone 負荷後 2 時間～6 時間で 10% 以上の上昇を示すものが多くみられたが、総 GOT に対するミトコンドリア GOT の比率には、有意な変動を認めなかった。

多発性筋炎 (3 例) では、CPK、LDH、%m-GOT 共に変動は認められなかった。神経原性筋萎縮症 (9 例) では、CPK、LDH は、DMP に類似の変動を示したが、%m-GOT は減少する傾向を示した。ALS (5 例) については、CPK、LDH、m-GOT は、多発性筋炎と同様に変動はみられなかった。Table 2 に示すように各疾患別の CPK の最大変動症例数を示した。DMP では、2 時間～6 時間の間に前値の 90% 以下に減少した症例は 8 例 (17%)、110% 以上の上昇をみたのは 30 例 (63%)、10% 以内の変動しか示さなかったのは 10 例 (21%) であった。多発性筋炎では、減少したものはなく 10% 以内の変動は 2 例 (67%)、110% 以上の



Fig 1.



\\ DMPのHLA — Frequency について

国立療養所宇多野病院

野口 貞子	北野 治男
小西 哲郎	池上 佳典
吉岡 三恵子	鍋谷 登

〔研究目的〕

↓  
**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります  
↓

〔目的〕

DMP 患者の血清中には、発病初期より筋肉由来の種々の血清酵素値が上昇し、これらが本症診断の有力な手がかりの一つとされてきた。しかしこの酵素異常に対する機序については、未だ明確な evidence は少なく本症の成因とともに未解決のままである。そこで我々は Prednisolone 負荷によるミトコンドリアに局在するミトコンドリア GOT(m-COT)と CPK、LDH などの酵素の動態を、高橋らの方法に従って DMP およびその他の神経筋疾患で測定し若干の検討を加えたので報告する。